

情報リテラシー教育ルーブリック（一橋大学附属図書館 2023年度版）

【ルーブリック策定の目的】
一橋大学附属図書館において情報リテラシー教育活動を行うにあたり、その対象者のレベルに応じて期待される行動指標や、獲得すべき能力・知識を定め、個々のガイダンスの設計・見直しに際しての基準とする。
なお、策定に当たっては「高等教育のための情報リテラシー基準 2015年版（国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会）」に基づいた。

表1. レベル別ガイダンス（2023年度（予定））

レベル 主な対象者	初級 学部1, 2年生	中級 学部2, 3, 4年生	上級 学部4年生, 大学院修士課程以上
ガイダンスと そのレベル範囲	①リサーチ・スキルズ		
	②レポートの書き方ワークショップ		
	③法学ワークショップ		
		④大学院新入生向け図書館ガイダンス	
		⑤International Students' Library Guide / 留学生向け図書館ガイド	
		⑥データベースガイダンス	
		⑦オンデマンドガイダンス	
			⑧論文投稿講座
			⑨英語論文の書き方ガイダンス

表2. 目的とする参加者の習得スキル（基準）と該当するガイダンス番号

課題解決のための情報活用 行動プロセス	初級＝基礎：与えられたテーマ・情報 源をもとにレポートを作成できる	中級＝応用：与えられた課題について 自らテーマを設定し、先行事例を踏ま えた上で自らの意見を含んだレポート の作成・発表ができる	上級＝発展：自ら調査・研 究テーマを設定し、学術的 な論文の作成・発表ができ る
<u>1. 課題を認識する</u> 課題を認識し、その解決に 必要な情報の範囲を定める	課題の意図を正しく理解する。 ②③	課題に沿ったテーマを設定できる。 ②③	
<u>2. 情報探索を計画する</u> 必要な情報入手のために探 索計画を立てる	- 図書、雑誌、インターネット等、情 報・メディアの種類が多岐にわたる ことを理解し、それぞれの特性を説 明できる。①⑦ - 貸出・予約・レファレンスサービ ス等、文献入手に関わる図書館サー ビスを利用できる。①④⑤⑦ - 著作権法等、情報を探索する際の適 法性に留意できる。②	- 調査テーマに関する先行事例の調査 を行うことができる。①④⑤⑥⑦ - 課題の解決に適した信頼性の高い情 報源を推測できる。⑥⑦⑧	信頼性の高い情報を選択 できる。⑥⑦⑧
<u>3. 情報を入手する</u> 情報探索ツールを適切に選 択・活用し、情報を効率的 に入手する	- 図書館の蔵書検索ツールを利用し、 指定された資料を検索・入手できる。 ①④⑤⑦ - 参考・引用文献リストを適切に読み 取り、調査に活用できる。① - 与えられた情報源を検索できる。① ④⑤⑥⑦	- 文献検索の検索語（同意語、上位語、 下位語）を工夫し、データベースを 検索できる。①⑥⑦ - データベースを活用し、必要な情 報・資料を検索できる。①④⑤⑥⑦ - 情報の出所や信頼性を点検・確認で きる。①⑦	- 先行研究論文等の引用文 献リストを利用し、計画 的に探索できる。⑥⑦⑧ - 他機関の図書館から文献 を取寄せるなど、図書館 のサービスを必要に応じ て利用できる。④⑤⑦
<u>4. 情報を分析・評価し、 整理・管理する</u> 収集した情報を体系的に整 理・管理する	- 学術的な文章の要旨をまとめること ができる。②③ - 情報を取捨選択し、活用できるよう に整理できる。②⑥	資料リストを作成し、管理できる。 ⑥	文献管理ツールを使用し て、収集した文献情報を 活用できるように組織化 できる。⑥
<u>5. 情報を批判的に検討し 知識を再構造化する</u> 整理した情報を批判的に検 討することで自らの知識を 再構造化する		選択した情報、データおよび意見を 自分の文脈で意味づけ、自分の言葉 で説明できる。②⑨	
<u>6. 情報を活用・発信し、 プロセスを省察する</u> 社会倫理に則り、合法的に 情報を活用・発信し、情報 の受け手と適切なコミュニ ケーションを行う。また、 情報活用講堂全体を省察す る	- レポートの一般的な体裁を説明でき る。② - 他人の文章と自分の文章を区別して 書くことができる。② - 読み手を意識してレポートをまとめ ることができる。②③ - 引用と剽窃の違いを説明できる。② - 情報の典拠を明示し、適切に引用で きる。②	- 事實的・理論的な根拠を示しながら、 問題提起に対応した主張を論理的に 述べるることができる。②③ - 著作権法等の情報倫理に留意できる。 ②	- 学術論文の構成に沿った 文章を記述できる。⑧⑨ - 受け取る相手に適したメ ディア・形式で適切に発 信できる。⑧⑨